



真夏の強い夕日が照りつける七月三十一日午後、恒例の「夏越の大祓事」が、古儀に則り厳かに斎行された。

「大祓」の儀式は、古代律令体制以来、六月・十二月の晦日に宮中に於て大祓が行われていた。宮中の大祓が応仁の乱を契機に一時途絶えたのは対照に民間では次第に発達していき、六月の祓を夏越の祓と呼ぶようになった。

当日早朝より、多数の氏子・総代の奉仕にて直径約五メートルの大茅の輪作りが行われ、正午近くには鮮やかな緑色の大茅の輪が神門に取

大祓式・夏越祭斎行



毎月十五日発行 所大社 社会
宗像 像
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町 電話 0940-62-1311(代)
定価 一年送料共 1000円

神具・装束 株式会社 井筒
結婚式場用品
福岡店 福岡市博多区東公園二(一三二)番(212)
電話 福岡(五)二六六一 一四四五(六番)
本店 京都市下京区油小路六条大(八)番(600)
電話 京都(五)三三四一(四番) 三三四一三三四(一)番

り付けられた。茅の輪は「備後風土記」によると蘇民将来が、小さい茅の輪を腰に付けて疫病除けをしたことに由来するものである。神門前には全国各地より寄せられた紅白の人形を取り入れた唐櫃が据えられた。人形は、今から一五〇〇年余り前、当社の沖津宮に奉獻された祭祀品に、信仰を見出す事が出来る。特に石製人形、舟形、馬形等は古代の人々が安全と繁栄の祈りをこめて神に捧げたもので、現在当社神宝館に収蔵されている。これが、現在は紅白の紙

大島の夏祭り



連日の猛暑の中、旧暦十五日に当る七月三十日(公)悪疫退散・災難消除を願う、祇園祭並びに山笠行事が、ここ大島でも斎行された。祭りに先立ち、十七日、山笠保存委員会により大人山笠、石、子供山笠二台の飾り付けが行われ、局内は山笠ムードに包まれた。祭り当日も、真夏の日差しが容赦なく照りつける中、午後、時末社須賀神社に於て祇園祭を斎行、目原奉賛会長、船越山笠保存会長、杉田大島村長を始め大人か

の人形 男は白・女は赤に自分の名前を書き、息を吹きかけて、当社に返送されてきたものである。夕刻の五時とはいえ、日中の日射しと変わらぬ暑さの中で、神門前に神輿、巫女、総代の外、多数の一般参列者が長い列をなした中、太田権宮司が朗々と大祓詞を宣読し、真綿の大麻で天・地・人形を祓い、参列者全員に手渡された切麻で各自の身体を祓い清め、続いて祓物と呼ばれる白布に息を

吹きかけて切り裂き、年が明けてから半年間に知らず知らず犯した罪穢をこれに託した。先ず養父宮司以下参列者全員が神門を左に廻り、するときは夏越の祓へ、ふといふなり、次に右に廻りて、思ふこと皆つきねとて麻の葉を、切りに切りても祓へつるかな、宮川の清き流れにみそ

ぎせば、折れることこの叶わぬはなしと古歌を唱和しながら大茅の輪を三度潜り、罪穢を払い除けた。引き続き拝殿へと参進、夏越祭が斎行された。国家皇室の安泰、繁栄、また氏子崇敬者や人形を郵送された全国の崇敬者の方々の健康、災難消除を祈念する祝詞を宮司が奏上して後、巫女舞神楽豊栄舞が奏され、夏越祭の一大神事は滞り無く終了した。

祭典終了後、古来より魔除けとされる大茅の輪の茅(ちがぎ)と、当社からの授与品である茅の輪御幣を参列者は各自玄関や神棚に供えるべく、夕暮れの中を持ち帰った。

ら子供まで法被姿で参列、島内の悪疫退散・災難消除が祈念された。

祭典終了後、パトカーを先導し大人山笠、子供山笠の勇壮な山昇りが始まった。中津宮前を出発した山笠は、先ず西側に進み、宮崎区を経て谷区方面へ、その間沿道の村民の激励と力水を浴びながら、堂の前区の子供広場まで巡幸、島内をまっしごい、オッショイの掛け声駆け巡った。子供広場に山笠が安置されると、「筑前大島 御生太鼓」の演奏が披露され、本年の山笠行事も無事終了した。

奉納袋配布並に取纏め御礼
平成八年庚戌、宗像大社夏越大祓式齋行にあたり、市郡氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。祭典は例年にもまして盛大厳肅に齋行致すことが出来ました。茲に謹んで紙面を以て感謝の意を表します。平成八年八月吉日

宗像大社 宮司 養父 守
宗像大社 子会 会長 出光 太蔵

「御礼」
当大社恒例の夏越祭神事齋行に当たりましては、宗像市郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典も盛大裡に齋行致すことが出来ました。ここに謹んで御礼申し上げます。平成八年盛夏 宗像大社 宮司 養父 守 崇敬者各位

七夕祭斎行
筑前大島恒例の七夕祭が八月七日(水)斎行された。七夕祭は、中津宮境内を流れる清流「天の川」を挟んで鎮座する織女社と牽牛社に於て、一年に一度の逢瀬を楽しむ祭りとして斎行された。織女社を拝する「天の川」沿いに芝垣に囲まれた祭壇を設け、また周囲は折紙・短冊・風船等で装飾され、神前には神饌と共に村内氏子の願いが込められた祈願書が供えられた午後八時祭典を開始、目原奉賛会長、河野宗像大社責任役員、杉田大島村長を始め浴衣姿の老若男女多数が参列、敬虔な祈りを捧げた。祭典終了後、村内婦人有

志による七夕踊「夕浪干鳥」を奉納、続いてその輪にチビツ子から大人迄加わり、炭坑船外を踊り、大いに盛り上がった。七夕踊に続いて、大島村青年団奉仕により金魚すくい、ヨーヨー釣なども行われ、子供達がさかんに興じていた。かくして大島の夏の一夜は、夜の更ける迄大いに賑わった。

宗像大社 宮司 養父 守
宗像大社 子会 会長 出光 太蔵



博多の味 味噌せんべい 博多の四季 本舗

有限会社 梅月堂

〒812 福岡市博多区古門戸町1-11
TEL 092-291-2966

Shukosha

秀巧社は80周年を機に、新たにロゴタイプを設定しました。新しい秀巧社にご期待ください。

印刷からマルチメディアへ。情報コミュニケーションへ。

秀巧社印刷株式会社
営業部
〒810 福岡市中央区渡辺通5-14-9
Tel 092-712-7711 Fax 092-714-1017 <http://www.shukosha.com/>



宗像大社中津宮の夏の恒例行事である、七夕揮毫会。主催は宗像大社中津宮、大島村教育委員会が、去る七月二十四日(水)に行われた。

第四十一回 中津宮七夕揮毫会

この七夕揮毫会は、宗像市郡を始め、県内各地の小中学校を対象に昭和三十一年、教育振興を目的として発足本年度四二回を迎え、約二五〇名の参加を得、大島小、中学校の二会場に分かれ、幼稚園(ユリ)小学一年(ユリ)二年(山のぼり)三年(光るあせ)四年(美しい心)五年(万葉の里)六年(友情の火)中学一年(古清風)二年(古都探訪)三年(和漢才)の各課題に、日頃の練習の成果を發揮せんと真剣に浄書を終えた。

ある村の鎮守様の境内で、子供たちが御神体を祠からとり出し、放り投げながら遊んでゐる。そこを通過りかかった大人が、子供たちに注意して御神体を元通りにする。するとその晩、その大人の夢枕に鎮守の神様が立ち「せっかく子供たちと遊んでゐたのに、なぜお前はそれを止めた」と語る。

夏休みは神社で

このやうに子供たちが鎮守の森で遊ぶことが普通で、そしてそれが子供たちの生活の場であった。ところが、今では子供が遊んでゐる姿がなかなか見られない。また、公園で遊んでゐる姿も見られない。勉強に追はれ、夜遅くまで塾に通ふためであらうか。夕暮れまで泥だらけになって遊んでゐた時、ガキ大将を頂点としてさまざまな年齢で集団が形成されてゐた。この集団を通して、幼い者をいたはることを学び、また団結の強さ、地域社会の絆、偉大なものへの畏敬の念などを学んできた。その中で地域の伝統行事に参加することにより、伝統を保持し、年中行事を学んできた。もちろん現在でもこのやうな風習が残つてゐる。

午後二時には全審査を終了、各賞が決定すると、早速表彰式に移り、各人賞者へ賞状とトロフィーが手渡され、金賞以上の作品が神門脇廻廊に展示され、午後四時には今年の七夕揮毫会も無事盛況に終了した。尚各賞の入賞者は左記の通りです(金賞以下省略)

神保連は幼児教育を通して、氏青協は青年会活動、全神協では教育に携はる神職が、神協ではスカウト活動を通じて、神社と青少年を結びつける努力を重ねてゐる。夏に開かれるそれぞれの大会は、その日頃の成果を交換し、また研鑽する機会である。だが、全ての神社または氏子の人たちが、後継者である子供や青年たちを大事にし、これを育成してゐるかといへば、肯定できない面もある。新たに引越してきた人々を氏子として認めず、限られた人々だけで祭祀をおこなはうとするが、その人数が少ないことから祭祀の先細りを心配する例をはじめ、境内で遊ぶ子供たちをむげに追ひ出し、限られた者たちだけの場としてゐること、また逆に無責任に境内を放置するがゆゑに、神域が非行少年のたまり場となつてしまふ事例も皆無ではない。

- 井上 大輔 (八女南中)
- (大島村長賞) 花田 和也 (津屋崎小)
- 中山 美穂 (八女南中)
- 中島村教育委員会賞 水田 文華 (南郷小)
- 木田 文華 (南郷小)
- 緒方 美希 (鳥栖西中)
- (福岡書道会賞) 江崎 理奈 (旭小)
- 梅田 まお (赤間小)
- 奥村 朋子 (雙葉小)
- 白木 澄歌 (自見小)
- 陣内 美加 (旭小)
- 河島 佑香 (筑南中)
- 高山 里子 (城中中)
- 橋山 真佳 (福岡中)
- (尚文堂賞) 東 豊 (あさひ幼)
- 奥村かずひろ (付属小)
- 森田 和也 (二河小)
- 青野 未来 (矢留小)
- 吉水 まお (大島小)
- 水野 樹 (旭小)
- 森田 麻衣 (二河小)
- 緒方 知博 (旭小)
- 豊増 一彦 (旭小)
- 大石 裕華 (旭小)
- 持丸 裕美 (北山小)
- 鍋山 美紀 (吉武小)
- 吉川 有沙 (旭小)



宗像大社中津宮の夏の恒例行事である、七夕揮毫会。写真は、去る七月二十四日に行われた。

残暑御見舞申し上げます

みなとタクシー株式会社
代表取締役 古野 浩
宗像市大字土穴三九八―十一
TEL 〇九四〇―三三三―一三三三

新星交通有限公司
代表取締役 森 正彦
宗像市 大字 東郷
東郷営業所 〇九四〇―三六二―一三三八

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役 出口 典征
宗像市自由ヶ丘二一七―一三
TEL 〇九四〇―三二一―四一三一

宗像グリーンタクシー有限公司
代表取締役 藤 瀬 政敏
宗像市大字河東字岩ヶ鼻一一二―二
TEL 〇九四〇―三三三―三三〇三

宗像平和タクシー株式会社
代表取締役 塩 川 弘昭
宗像郡福岡町二七二八―一三
TEL 〇九四〇―四二一―〇〇四〇

福栄タクシー有限公司
代表取締役 保 井 久
代表取締役 保 井 享
代表取締役 保 井 享
宗像郡福岡町字東の前二三三―一八
TEL 〇九四〇―四二一―〇三三三

第六回 宗像大社氏子会研修旅行 「歴史と神話の里」熊本・宮崎地方巡り

市・郡内より三十四名の氏子の皆様の参加を得て実施



名が参加実施された。日程第一日は、午前七時四十分より市郡各地方から参加の会員、貸切バスにて過ぎ古賀ICより九州自動車道を南下、熊本ICで降り、一日目の目的である「トロッコ列車」乗車の為

同車心に返り、トロッコ列車の旅を堪能し終点の高森駅に到着した。高森駅より貸切バスに乗車、近く南阿蘇国民休暇村にて、山菜料理の昼食の後、阿蘇地方の動物園の生熊を展示する南阿蘇センターを見学、阿蘇山頂を経て午後五時前阿蘇神宮に到着。自由参拝を行い宿泊地の赤水温泉の阿蘇白雲山荘に着、第一日目の行程を終え

二日目は午前八時に宿舎を出発、阿蘇盆地を半周して宮崎側の外輪山を越え、高千穂峠へ向い九州のへんと言われる蘇陽町を通り神話と神楽の里の天岩戸神社に到着、祝告にて修祓の後、神祇の先導にて拝観へ参進、出光太威会長の代表玉串拝礼に合せ一同列拜、特別の案内で同神社の奥宮である対岸の天の岩戸を本殿裏側より遙拝、由緒等の説明を得て神楽殿にて休息、同殿にて岩戸神楽舞の鑑賞を行った。

神楽は全三十六番有り、時間は約八時間の舞であるとの説明で、我々は内四番の舞を見ることとなった。舞人、舞人、舞人の人員、太鼓と笛に合せ、天石簾に隠れた天照大神の出現を願う、手力雄命、天鈿女命の岩戸開きの件を、豊かに表現された神楽に、一同笑い拍手を以て、楽しい一刻を過ぎ、同神社を退出した。次に高千穂峠に向った。太古の阿蘇の噴火と永年の浸食によって変化した高千穂大地の自然の景勝を散策して同処にて昼食の後、九州の屋根を雲海橋、星雲橋と横断し延岡市へと出て五時過ぎに青島温泉の青島観光ホテルに到着。三日目は午前八時半に宿舎を出発、十数年前迄は新婚旅行の目玉となった、日南海岸路を鶴戸神宮へと向い十時過ぎには同宮に到着。駐車場より往復 2km の太平洋を望む断崖の中腹に鎮る本殿に参拝、一路宮崎市内へと引返し神武天皇の八紘一宇の塔に参詣、壇輪公園内にて昼食の後宮崎神宮に向い、午後一時祝告に於て修祓を受け神祇の先導による玉串拝礼に合せ一同列拜の後、神祇の由緒説明を聞き宮司黒田重彦氏の挨拶と湯茶の接遇を得て退出、宮崎ICより九州自動車道に入り一路高千穂峠へと向った。途中二回の休憩を行い六時半過ぎに神楽港に到着、大島より参加の方々が最終便に乗船、以後各地参加者の自宅近く迄送り、支障なく全行程を終えた。

今回の研修旅行は連日三十度を超える猛暑の中、参加者平均年齢八十をこえる高齢者の方々には体力的に高難上でも大変な日程であったが一人の事故者も無く、元気に全行程を終えることが出来たのも、各位の常日頃からの健康保持と氏子として敬神崇祖の念の深さによると感じると共に、各位の協力と互助に担当者として感謝致します。第六回の研修旅行を企画され全行程を添乗、種々のパースル旅行社吉村ガ彦氏並にユルモア溢れる名方パースルと安全運航に依り支障なく運行された、西鉄観光バスは業務員各位に感謝致します。御礼申し上げます。

城南ヶ丘 中間日出子
雲海の上にそびえて立山の雪をもつ尾根大空に映ひ
雪をもつ尾根大空に映ひ
雪をもつ尾根大空に映ひ
雪をもつ尾根大空に映ひ

福間 池浦千鶴子
黒々と吾が髪染めて帰りに
ぬ色変わりする紫陽花にも似
て
七変化ともいう紫陽
花と髪を黒く染めた姿の取
合せが面白い。変身願望の
女ころが感じられる。

福間 中村 勇
頭叩き惚けてみぬかと確か
むる朝一刻の吾のしぐさに
「評」否応なしに迫ってくる
老。野妙な詠いぶりだが
が、生きようとする作者の
精神はまだ若々しい。

吉留 白木うめ
バス停の横に棚置き売られ
る野菜の今日は五五六
把
「評」今流行の無人販売だ
ろう。「今日は我が五五六把」
の具体が、無人販売と作者
のかけ合いなどを想像させ
る一首となった。

河東 薄 かねる
ワフインガー・ツーフイ
ンガーとふ束縛のなき独酌
にほろ酔ふは
「評」中年の夫婦の生活の
一齣か、年を踏んだがうな
二句も面白く新鮮だが、
「束縛のなき独酌」と言
う捉え方に微妙な心理がこ
もり、一首を新しく若々し
いものとした。佳吟。

宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選
毎月末日メ 切

朝野 藤井 浩子
石仏の一つ一つに手をふれ
て何を祈るや麻痺の吾が友
と見てゐる
徳重 石松や寿子
眠れざるままにさまざま案
じ居し妻刈り田植終わりぬ
無事に
ひかりヶ丘 藤原みさを
古里の暮参にゆくたび人に
会ふ菩提寺に墓地もともお
くらし
自由ヶ丘 津江富美子
古里の川辺の家はマンショ
ンに様変わりして逢ふ人知ら
ず
日の里 大和美由紀
松の菰摘近々まで来し目
白声登り鳴くを夫と楽しむ
てみれば
名屋 小田 喜一
灰白く夕月出でて吾が庭の
木槿の花ははやも閉じたり
津屋崎 佐々木和彦
夕立になりきらざりし雨の
夕立になりきらざりし雨の
夕立になりきらざりし雨の
夕立になりきらざりし雨の

池田 小田 イセ
筑後川水路の水を汲み上げ
る三連水車滾りつつ
田野 森 甲子
咲き初めシアガバサスの
花にくる蜂も忙し梅雨の晴
間を
名屋 小田 留子
夜の間に命たくわえうす紅
のむくけはひとりの花開き
たり
田野 森 つるの
鶴神宮の運だめし石亀の
脊の柙目がけ懸命に投ぐ
田久 井上 光
老い君が買物終へて口笛を
吹きつつ通る初夏の街角
鐘崎 安水 久子
部屋毎に活けたる花に添へ
し百合梅雨の湿りをはらひ
て香る

原町 八波 五月
腰痛みて寝てある我をいぶ
かし犬のイチローがじつ
と見てゐる
土穴 瀧口 敦子
川底にかすかにゆれる藻の
みえて目づかの群がすいす
い通る
八幡西 有吉 陽子
草取りをすませし庭をふり
返りほつと一息梅雨近き午
後
大島 越智 治子
島山の草叢の中秘やかに一
本咲けり姥百合の花
吉留 高山 信子
わが生みし娘より常にさ
とさるるうれしき事と考
えてみれば
福岡東 岩男 巨
すがすがし初夏の門辺に
新聞の一面欄を立ち読みす
るも
自由ヶ丘 細川 絹子
百日紅咲く夏は来ぬ過ぎし
子の年数えつつ老いゆく吾
は
曲 天野 玲子
名前さへ知らぬ国入り入場
式に国旗の敷きすオリンピ
ックよ
八幡西 松水ヤスヨ
故郷へ向う車窓の風景がみ
な変わりあり吾れも老いたり
武九 中村 さつき
六十五より歌を始めて十余
年栄けの防止と思ふおりふ
し
自由ヶ丘 調 貞子
雨あがり緑したたる城山を
包みかくして霧立ち昇る
土穴 瀧口 敦子
庭の鯉光を時時上り餌
を取る音水音に混る
福岡 二宮 末子
水澄みて岸辺の紫花鮮やか
に筑後の川に染うつして

残暑御見舞申し上げます



美松タクシー有限公司
代表取締役 塩川 浩一
宗像郡津屋崎町大字津屋崎新川端
TEL 〇九四〇一五二一〇〇一五

大和印刷
代表取締役 的場 重徳
宗像市大字田熊五二六二二
TEL 〇九四〇一三六二二〇二七

総合建設業
株式会社 弘江組
取締役会長 中野 弘愛
代表取締役 花田 和彦
福岡県宗像市大字稲元一〇二五
TEL 〇九四〇一三二五七三三九八

宗像グリーン株式会社
代表取締役 瀧口 潤一郎
福岡県宗像市大字稲元九〇五
TEL 〇九四〇一三三二二七二一

ハナダ写真館
代表者 山下 孝男
福岡県宗像市大字東郷一〇三一
TEL 〇九四一三六二〇〇九代

宗像大社歌会 俳句作品集(四〇)

福岡森 清
親と子の青田に夢をのぞき
視し

津屋崎 井浦 良介
山笠の過ぎし舗道のすく乾
く

福岡中央 山下しづえ
炎天下夏をうけもつ夾竹桃

自由ヶ丘 細川 絹子
薫風や白のまぶしき唐津城

日の里 花田いつ枝
ながせかな干し傘のみな仰
向けに

東郷 吉武 湧泉
入梅やかすみ勝なる老眼
鏡

東郷 中野 きみ
そこはかと匂ひこぼせる扇
子風

東郷 吉田 杵子
糞虫も蜘蛛も糸垂れ寺の昼

東郷 吉田 杵子
山梔子の花の白さに雨煙る

東郷 三浦三千代
新緑の真只中に吾ひとり

東郷 有吉重紀子
峠茶屋同行二人の心太

東郷 田中 雨葉
蔵院の冷たく光る蛇の衣

東郷 木原 房子
映の家裏も表も蕎麦の花

(続)



109

いしいただし

津屋崎町勝浦洪・白石浜
が見える。この海岸のこ
は幾度も書いてきたが、わ
が宗像が誇る海岸である。
白砂青松は県内でも数少な

い。背後に北は玄海町の名
児山から両端の宮地嶽まで、
二百メートル前後の山がっ
つき、その麓には、平城京
から大宰府に通じる古代官

道が通っている。
勝浦から白石浜の間は海
の中道と称され、昔は中洲
であり、この洲と、山手間
は海か、それに近い潟場が
あったから、大型船の航行
は無理で、現在の海岸線で
あったろう。ただ津屋崎小
学校近くに唐坊という地名
があり、そこからは清磁が
多数出土しているので、中
国と結びつくような船着き
場があったようで現在とは
かなり地形は異なる。

ヨットで海側から陸地を
見ると、陸地ではあまり気
付かなかったことが色々
浮かんでくる。特に山の形
や位置等である。津屋崎の
塩浜のところには三角形
(標高八六メートル)と
森神社のある山は台形(八
一・四メートル)の山容で
特徴がある。古代天文測量
を研究している人達によれ
ば、人工の山とか祭祀に関

した。船べりから放尿さ
せると見せかけて、と伝説
に述べているが前妻と主人
との愛の結晶は、継母の憎
しみを作つた例は少なくない。
平安朝のままじいじめ
の作品、落書物語をはじめ
小説演劇の筋書によく現れ
ている特筆である。

中納言は逆上した。船を
止めるや、狂気のように海
を探させた。潮騒は無情に
愛児を呑んで、人の心を闇
にした。ところが夜のあけ
に頃、海上に輝いて、愛
児が船に乗って載れている
異様な光景を見たのである。

愛児を乗せたその亀こそ
は、かつて中納言が淀川の
川尻で、鶴飼に釣り上げら



相島の裏側

宗像むかしばなし

亀の霊験 (その一)

鶴と亀が長寿の象徴とし
て、祝事に登場する慣習は
古い。何時というわけでは
ないが、縁起ものとして選
ばれたかは知らない。鶴の
舞姿の美しさは、めでたい
情景のチャンピオンだが、
沼沢をそのそ淺歩する亀
の格好は、千年の鶴を凌ぐ
万年の王者とも思えない。
中国の俗説談話の輸入に
端を発しているのだろう。

事に出合って「鶴亀龜」
を唱えても、ケチをつける
理由もない。
昔路傍で亀を売っていた。
買ったものが巨宅持ち帰っ
たところ、翌日死んだ。怒っ
た万年希聖者は直ちに亀壳
の商人に抗議した。商人笑っ
て曰く、「その亀は万年の
寿命が本日終ったのです」
と、うまく答えたものであ
る。

亀にまつわる話を二つ。
むかし、大宰師を拜命した
山陰中納言が、海路赴任し

折しも同じ船に乗って
いた後妻が、中納言最愛の前
妻の子を、こっそり海に落

した夜臼丘陵(高松丘陵)
弥生前期の三代貝塚のあつ
た三代丘陵も、今は住宅地
に変わってしまった。
夜臼丘陵からは五世紀前
半代の祭祀土坑が発掘され
六千四百余の白玉・百枚の
有孔円盤・百二十個以上の
小型丸底壺・三百点を超える
土器群が発掘されている。
三、四代丘陵でも、調査終
了後、フルド・サが整地中
に三千余の白玉や有孔円
盤類を掘り出している。

西丘陵の正面に立花耶麻
の秀峰があり、神道考古学
の大場繁雄先生の分類では
山嶽信仰に入らう。古代こ
の山は神の依りつく信仰の
対象となり、やがて中世に
はその位置と急峻な地形か
ら山城として、睨みをきか
す事となる。

ヨットは遊びながら、楽
しみながら音もなく走る。
次第に玄界島も大きくなっ
てくる。ヨットが二、三メ
ートルほどのとき、サメ
の黒い背ビレが見えた。近
年、瀬戸内海や沖繩でサメ
に襲われる事が多い。まだ
外海だが、博多湾に近い位
置だ。

つけて成り立っている。浦
島太郎の童宮訪問の話も、
亀の報恩が根底をなしてい
る。そして愛憎悲喜の人間
の弱さが、因縁話のよこ糸
として織り込まれ、放生会
信仰を強調する。

もう一つ亀にまつわる霊
験談の一つつたいが、誌面
の都合で、その二として次
回にゆずりたい。



残暑御見舞申し上げます

SANCS

株式会社 **サンクス**

代表取締役 **藤井俊孝**

宗像市東郷一〇九一一一三
TEL 〇九四〇一三七一一五〇

SHIROYAMA

株式会社 **城山家具**

代表取締役 **寺田修**

宗像市大字三郎丸五一九一一
TEL 〇九四〇一三三二五五三八

九州事業部

事業部長 **大九重治**

福岡県粕屋郡新宮町大字立花口〇五〇
TEL 〇九一九六三〇一一一(代)

宗像大社神酒

勝屋酒造合名会社

社長 **山本博次**

宗像市大字赤間九五七

宗像大社神酒

神酒宗像

福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
合資会社 **伊豆本店**
伊豆善也